

§ 2020年12月 1日 雨乞岳 山行報告書

山名	雨乞岳(1238m) 滋賀県	報告者	永田 徳之
日程	2020 12/ 1 (月)	参加者 計11名	山本 南, 山本 積, 久末 芳正, 藤田 憲次郎, 島本 敏郎, 溝尻 浩, 今泉 武志, 山本 稔, 塩見 泰男, 有島 講次, 永田 徳之
登山 記録	鈴鹿セブンマウンテンで最高峰で、鈴鹿山脈では二番目の高山。 ●累積標高差:824m ●歩行距離:9km ●登山開始:8時7分、登山終了:14時15分 ●合計時間:6時間8分 ・行動時間:5時間3分 ・休憩時間:1時間5分 ●休憩も含み 登り:3時間14分 下り:2時間45分、頂上:9分 ●天候:くもり、山頂部で時々晴れ ●東雨乞岳登りは時々、景色が見えたが、下りは木々で見えない		
6時過ぎ	岡崎発 →6:53愛知県組 湾岸自動車道 刈谷SA集合、出発(岡崎I/C～刈谷SA経由～菟野I/C～鈴鹿スカイライン) 長島温泉付近の海側は快晴なのに、鈴鹿山脈の頂上付近は、雲におおわれている。 鈴鹿スカイラインに入ると、道路には雨が降った跡のように濡れていた。		
7:44	武平トンネル西駐車場、京都・滋賀組と合流		
8:07	登山開始(標高805m) 開始直後、登山道を一瞬迷う。杉の根を踏み、登る。 落ち葉と滑りそうな山腹の細い登山道を進む。		
8:49	沢谷峠前(看板③、④)で休憩		
8:55	沢谷峠(標高920m) 落ち葉の中で、土が見える下り道を歩く。 落ち葉の中で杉の根がむき出しの道を登る。		
9:24	沢谷ノ頭(標高967m) 周辺を見渡せば、薄曇に山頂が少し見える。 落ち葉の中で杉の根がむき出しの急登を登る。 三人山経由と書かれた樹木横を登る。		
10:10	三人山(標高1014m) 周りが視界不良の中、三人山で集合写真。 落ち葉の中で、土が見える道を登る。 熊笹で覆われ、ぬかるんだ急登を進む。 下山中の登山者が2回ほど尻餅をついていた。 すれ違い時にスパッツが必要と助言を得る。 パンツのすそは、既に泥付着。未装着で登る。		
10:54	東雨乞岳手前で風を避けて休憩 3℃ 周辺の山々の頂上に雲が無くなり、よく見える。 雲に覆われた空に、雨乞岳への登山道が見える。		
11:08	東雨乞岳(標高1225m) 風強く寒さもあり、風景撮影後、雨乞岳に向かう。 熊笹の登山道、ぬかるみで靴に泥付着し滑りそう。 やっぱり、スパッツが必要と痛感するが、もう遅い。		
11:21	雨乞岳(標高1238m) 雨乞岳の看板を囲み、記念撮影。 寒いので、そうそうに下山開始。 熊笹のぬかるんだ登山道、ごっそり登山靴に泥が付着し滑りそう。		
11:42	東雨乞岳(標高1225m) メンバーのパンツすその泥付着を記録撮影。 熊笹で覆われ、ぬかるんだ下山道を、滑らないように注意し進む。		
12:00	昼食 (看板⑧過ぎ、下り途中の風が少ない開けた場所)		
12:31	七人山のコル(標高1025m) 川沿いの下山道は、石が丸く、滑らないように注意が必要。		
13:02	クラ谷(看板⑤) 川沿いの下山道を進む。 落ち葉の山腹の、細い登山道を進む。		
13:32	沢谷峠(標高920m)		
13:36	沢谷峠前(看板③、④) 落ち葉と水分を含んだ滑りそうな山腹の細い登山道を進む。		
14:15	登山終了、武平トンネル西駐車場(標高805m) メンバー全員で、記念撮影。全員、無事下山完了。 京都・滋賀組とは、駐車場で解散。		
15:41	希望荘で入浴後出発(岡崎組でも別行動するため解散) 菟野I/C～刈谷SA～岡崎I/C		



登り:黄色(三人山)、下り赤(七人山コル)



雨乞岳山頂での記念撮影



東雨乞岳から御在所を望む



東雨乞岳から雨乞岳への登山道

